校訓「至誠」

母校 元小

学　校　だ　よ　り
令和７年１２月
川口市立元郷小学校
児童数：４３３名

元郷小HP

身のまわりの情報リテラシー

校長　根本 広徳

１１月には、公開音楽会、芸術鑑賞教室、持久走記録会と芸術を通して情操を深め、また、持久走を通して体力を向上させることができました。保護者、地域の方々には熱心な鑑賞、応援で子供たちに大いに力を与えていただきました。ご協力ありがとうございました。

一方で、１１月には子供たちの間で様々な問題も起こっており、その対応にも注力した月となりました。そのような中で、今後さらに注意していかなければならないこととして、身のまわりの情報リテラシーについて考えてみたいと思います。

情報リテラシーと検索すると、「膨大な情報の中から真偽を見抜き、信頼できるものを選び出す力、そしてそれらの情報を正しく解釈・分析・活用する力が含まれる。現代社会で正確な判断を下し、主体的に行動するために不可欠なスキル」と出てきます。これは、インターネット上の膨大な情報から正しいものを選び出し、活用する能力で、学校では、この能力を身につけるために学習はしています。しかし、ふだんの生活をする上で、様々なトラブルを回避するためには、まだまだ不十分であると言わざるを得ません。インターネットを介さないふだんの生活の中でも、この情報リテラシーの力が必要になってきます。

例えば、友達同士のトラブルの中でこんな事例がありました。A さんが B さんに、「C さんが B さんとは遊ばない。」と言っていたよ、と伝えたことで、B さんは C さんを自分とは遊ばない意地悪な人なんだと受け止めてしまい、それ以来、仲が悪くなってしまいました。しかし、実際は、C さんは遊びたかったのだけれど、その日は用事があって遊べなくなったということでした。しかし、A さんが間に入ったことで、C さんの情報が B さんに誤って伝わってしまい、それまでの関係が崩れてしまいました。なんと痛ましいことでしょう。さらに、これに SNS 上のやり取りが入ってくると、問題がさらに膨らんでいきます。

実際の情報が、間にだれかが入ることで、本来の情報とは違った形で伝わってしまうことが往々にしてあります。ではどうすればよいのでしょうか。そうです。情報リテラシーの「真偽を見抜く、確かめる力」をつけていけばいいのです。上記の事例の場合、間を介した A さんからの情報だけではなく、直接 C さんの口から聞くことができていたら、誤解なく仲のよい関係でいられたと思います。SNS 上であるならば、間接的に得る情報ではなく、直接本人から聞く、直接発信元からの情報で判断することがトラブルを避けることなります。ただ、上記の事例が SNS 上で起こった場合、C さんが B さんに「遊べない。」と送ったとすると、B さんがどのように受け取るかどうかも、トラブルになるかならないかの分かれ道になります。トラブルにならない判断をするためには、やはり本人にその「遊べない。」とは、どういうことなのかをきちんと確かめること、短ければ短いほど、そのメッセージの真意を正しく解釈・分析・活用する力が必要になってきます。

ふだんの生活の中で、様々な誤解やトラブルをなくして快適に過ごせるように、身のまわりの情報リテラシーを学校・家庭で意識していきましょう。